

キーワードで完ぺき 

歯科衛生士国家試験

新
出題基準
準拠

直前マスター 歯科予防処置!

歯科衛生士国試問題研究会 編



赤い
チェックシート
付き

医歯薬出版株式会社



小窩裂溝填塞法

小窩裂溝填塞法 ★★★

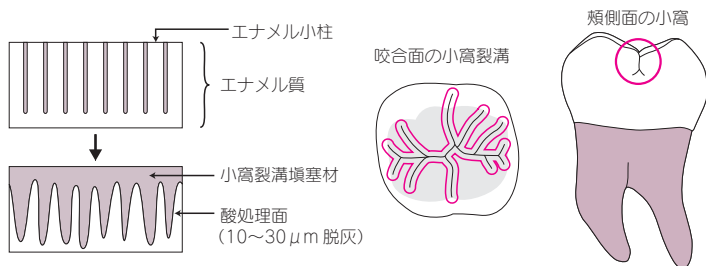
・歯質を削らずに填塞材で小窩裂溝を封鎖して、う蝕の発生を防ぐ。

種類

- ・ Bis-GMA系(レジン)
- ・ MMA-TBB系(レジン)
- ・ **グラスイオノマーセメント**：萌出途中、半萌出の歯など、**ラバーダム防湿**できない場合に用いる。酸処理をする必要がなく、簡易防湿を行う。

酸処理

- ・ エナメル質の表面を酸処理することにより10～30μm脱灰され凹凸ができる。この凹凸を**タグ**という。
- ・ エナメル質を酸処理することで、填塞材の保持を強くする。



(最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論)

適応症

- ・ 臼歯(永久歯・乳歯)の深い小窩裂溝、上顎側切歯の口蓋面、盲孔
- ・ 萌出直後より3～4年間
- ・ リコール可能な患者

実施上の注意 ★

- ・ **6カ月**を目安にリコールをし、定期的なフッ化物の塗布と口腔内清掃状態の確認を行う。
- ・ う蝕の原因となるので、歯面清掃は確実にを行う。
- ・ 小窩裂溝填塞材は、室内の照明でも**硬化**することがあるので、手際よく実施する。
- ・ 酸処理剤やシーラントが皮膚などに付着した場合、多量の流水下で洗い、専門医の診察を受けるようにする。

実力完成問題

- 問 小窩裂溝への処置について正しいのはどれか。
- a 酸処理時の防湿は完全に行う。
 - b 光照射は填塞面に対し頬側から(斜め方向)に行う。
 - c 填塞時の歯面清掃にはフッ化物配合研磨剤を使用する。
 - d 小窩裂溝填塞の処置後にはフッ化物の塗布はできない。

ポイント

小窩裂溝填塞時の手技の過程が、脱落、二次う蝕の誘発に大きく影響します。

術式と使用器材 ★★★

術式	器材・薬剤
①ラバーダム防湿 ・簡易防湿を行うこともある	ラバーダム防湿用器材、コントラアングルハンドピース、ポリッシングブラシ、酸処理剤(混和皿、デイスボーザブルブラシ)、可視光線照射器(光重合型の場合)、アルコール綿球、咬合紙、咬合紙ホルダー、ホワイトポイント
②歯面清掃 ・ポリッシングブラシなどを使用する ・フッ化物配合研磨剤は使用しない	
③水洗・乾燥	
④酸処理 ・30～50%リン酸溶液を30～60秒作用させる ・乳歯は永久歯より酸処理時間をやや長くする	
⑤水洗・乾燥 ・白濁を確認する	
⑥填塞	
⑦光照射(光重合型の場合) ・填塞面に対して直角に行う	
⑧ラバーダム防湿の除去	
⑨咬合調整 ・咬合が高いと脱落の原因となる ・填塞後、洗口可	



フッ化物はレジンの接着を阻害するため、フッ化物配合研磨剤は使用しません。

解答へのアプローチ

- a ○
- b × 光照射は填塞面に対して直角に行う。
- c × 填塞時の歯面清掃にフッ化物配合研磨剤を使用すると、接着力が弱くなるため、使用しない。
- d × レジン系シーラントは酸処理を行う。酸で歯質が脱灰されるため、填塞後フッ化物塗布を行う場合もある。また、う蝕予防処置として、定期的なフッ化物の歯面塗布を行う。

